職場の外でもしぼる
諸物価一斉に値上げ

春の訪れとともに上がるのは気温ばかりではない。「公共料金値上げ一年間ストップ」期限切れの今年一月から、公共料金を主力にあらゆる物価がクツワをならべてぞくぞくと値上げを開始した。上がらない賃金の中から、毎日の生活をもっともっと切りつめて労仂者は職場でも地域でもしぼられていく。総評は二月二七日の物価メーデーを契機に本格的反対斗争を開始した。

四年間に三六％値上がり
貧乏人にはまずい米

消費者米価は、三七年の一二・四％、四〇年一月の一四・八％、ことし一月の八・六％と四年間に三六％もひきあげられた。

しかも品目別の価格は下表のようになり、われわれ貧乏人は値上げされたうえ、まずい米をくうほかはなくなった。

このように、値段は上げるが中味も悪くなるという値上げの仕方は米の値段ばかりではない。

貨物の赤字を旅客でカバー

汽車賃は国会での社会党の反対で三月ごろからになりそうだが、値上げの内容は貨物が一二・三％旅客が三一％と、旅客運賃がほぼ三倍の値上がりとなっている。

貨物はほとんどが大会社の生産物・原材料であり、これは極端に安い値段で輸送をしているので現在でも赤字だが、旅客運賃は現在でも二三％の黒字をだしている。

労仂者大衆はスシ詰めの列車で高い料金で通勤させ、大会社にサービスさせようというのである。

水道や電気でも

このようなやり方は水道料金や電気料金、郵便料金でも行なわれている。

水道料は工業用水道料金の五倍から七倍であるし、家庭用電力料金は業務用料金の三倍、また、郵便料金も一般国民大衆が利用する第一種だけが大幅に値上げが予定されている。

職場で地域で合理化

われわれは毎日、職場で合理化によるしめつけと低賃金に苦しめられているが、「高度成長」の名のもとに、大会社をふとらせることにだけ狂奔してきた自民党政府は、各公共事業の「赤字」を理由に、労仂者大衆からいっそうの金をしぼりあげ、それで大企業や独占資本にサービスしようとしている。

だから、とくに公共料金の値上げといった場合、こんにちでは、(1)利用者に対するサービス低下。(2)料金値上げ。(3)その企業に仂く労仂者への極度の合理化がみつどもえになって行なわれている。

反合理化を春斗の中で

二月二七日、総評は物価メーデーで総決起をするが、一切の物価値上げがこのような労仂者大衆への企業の外での合理化である以上われわれも春斗の中で、地域斗争を強化し、地域における反合理化斗争を強化しよう。

昨年からの値上げとことしに予定されている主なもの

米　代＝二三％（昨年と今年）
医者代＝九・二％
健康保険料＝保険料率千分の七〇（現行千分の六三）
標準報酬月額五万二千円を一〇万四千円に
バス代＝二六・九％
電車代＝二二％
水道料＝四五％（大牟田）
散髪代＝五〇円～一〇〇円
新聞代＝四五〇円を五八〇円に
ビール代＝一一五円を一二〇円に
国鉄運賃＝旅客三一％、通勤定期六八％
郵便料金＝封書一〇円を一五円、ハガキ五円を七円に、書留・速達・小包は三〇～五〇％
電話料金＝基本料金五〇％、市内は七円を一〇円に
電報料金＝普通電報一〇字まで六〇円を二五字まで一五〇円に
電気料＝中部電力・北陸電力が予定されているので可能性あり。

現行品目	原料米	改悪品目
特選米（1,180円）	1等米	上米（1,215円）
	2等米	
	3等米	
普通米（1,110円）	4等米	並米（1,175円）
	上等輸入米	
	5等米	
徳用米（935円）	準内地米	徳用米（970円）
	陸稲	（970円）

【いずれも10キロで】

ほやほや訪問（6）
共かせぎと育児
宮浦井上睦美さん（29）信子さん（22）

脱衣箱に

昨年八月二四日、御主人の睦美さんは、坑内からあがってみると脱衣箱に、「女の子出産」と書いてあったとるものもとりあえず病院に電話してきいたことは

「手足そろっとるかね？」

流産ぎみで四ケ月も寝たきりだった奥さんも、満足な子どもが生れるかと心配したときのことを、いまは楽しそうに語っている。

標準を上回る発育ぶりの美佳ちゃんを中に井上さん夫妻は久しぶりの日曜をすごしていた。

給料の半分は……

二人の結婚は御多分にもれず共かせぎが前提だった。

宮浦支部仕繰の分会長である井上さんの給料は差別もタップリ受けて一万円とチョット。

看護婦さんである信子さんと共かせぎでやっとだが、結婚はできても子どもを育てることでパッタリと行詰る。

美佳ちゃんが生れて以来奥さんの実家に同居中だが、二人の社宅に帰るに帰れない。いまでも二人が仕事にでて、実家のお母さんが仕事でいないとき赤ちゃんを近所の人に見てもらうのに、

「私の給料の半分はトンでいく」と御主人は語る。

それでも生きがい

二人とも仕事からは毎日おそく帰ってくる。奥さんは一日ごとに六時まで残業だし、分会長の御主人は毎日夜の一〇時ごろ。

「それでも、少しでもはやく帰って子どもの顔をみたいですね」と二人とも語っている。

「子どもができてみると、本当に自分はケガをしてはいかん生命を守らにゃいかんと思うようになりました。会社は分会長を他の人と切りはなすために徹底して悪い所にやりますが、この子のためにも保安斗争は絶対にゆるめられない。」

美佳ちゃんは、井上さん夫妻にとっては、生きること、斗うことの目的でもあるのだろう。

熊大でも

三川大変災の被災者を熊本大学に見舞ったときも、しみじみとこう感じたという。

「家族がある以上、絶対に災害を起してはいかん」

家庭でくつろぐ井上夫妻

家族ぐるみ

コンニチワ

手紙おくれたこと、非常に申しわけありません。ほんとうに何からなにまでお世話して下さってありがとうございました奥様にもお礼をつたえてください

いままでぼくは労仂運動についてまちがった考え方をしていました。会社内のこと、仕事のことは絶対に家庭内に持ちこんではいけないと考えていました。しかし、三池労組をみてこの考えがまちがっていたことに気がつきました。家族の理解なしには立派な労仂組合の活動家にはなれない。また家族をふくめた力の偉大さを認識しました。

この点おおいに反省し、いま三池から帰ってから毎日すこしずつですが、母や兄弟に話しています。もちろん母からは反対されました兄はなにもいいませんでした。しかし少しずつですが労仂運動について理解しています。先は長い、あせらず、ゆっくり完全に理解してもらうつもりです。

人間的にも

もう一つ、人間の成長を考えたとき、組合（労仂運動）は一つのきたえる場と思うようになりました。人間が組合をつくっている以上、当然なのでしょうが、いままでこんなにまで人間の成長という内部の問題まで関係するものだとは思っていませんでした。

人間として一番正しい生き方のできるところ、それはぼくの場合日整労組しかありません。一人になっても残らねば人間として非常に損だと思っています。

力は小さいが

階級斗争は必然的なもので、ぼくが好むと好まざるにかかわらず斗わねば自分の生活の平和、自由は守れないことに気がつきました

私も第一組合で頑張る

日本航空整備労組　清水光二

斗争なるものは例外をのぞけば嫌いだと思う、階級斗争をなくす、あるいは人間同士の斗争をなくすためにも、社会主義社会を早くつくらねばならないと思います。

ぼくは日本の社会主義革命が成功するため、非常に小さな力ですが、日整に残り自分の力を全部出し切るつもりです。労仂運動のめざしている方向がわかったような気がします。毎年同じことのくりかえしでは決してない。毎年いや毎日毎日、団結の力をつよめているのだと考えるようになりました

大志いだいて

明日からでもやりたいことは、日整労組員のもっている〝甘さ〟をなくすこと、もう一つは、労仂運動のめざしている方向をみんなにわからせることです。

分裂はぼくを三池へ学ばせに行かしてくれました。おかげでこなまいきなことを書くようですが、少なからず、ぼくという人間をめざめさせ成長させてくれました。この意味からいえば、まけおしみみたいですが会社に感謝しています。しかし経営者、また第二の幹部を許すことはできません。またにくしみは少ないのですが、第二の人々のだらしなさには尊敬できません

〝青年よ大志をいだけ〟ということばがあります。大志ではないかもしれませんが、大きな目的をもつということは悪いことではないと思いますので。

それでは三池労組のみなさんにこれからも、日本の労仂者の先頭を進むようなたたかいをやれるようガンバッてください。ぼくもおよばずながら後をつけさせてもらいます。

山下さん一家に幸多きこと、三池労組に幸多きことを心より祈っています。

さようなら

一九六一年一月二二日